

平成 29 年度 かねの音を取り組んでいく改善策

自己評価から導きだした事業所としての評価、そして9つからなる大項目それぞれの具体的な改善策にも取り組み、次の①と②については特に力を入れて取り組んでいこうと考えます。

①「記録」「報・連・相」「関わり」はとても難しいものだ。しかし重要でかつ不可欠であると認識している。今後も気づきや連絡事項等、確実に記録を行うこと、また記録を「書く」こと「読む」ことを実行する。今後も定期的に皆で振り返り常に意識できるようにしていきたいと考える。

また、ミーティングやカンファレンスの在り方について考える。ミーティングとは「気づき」を共有する大切な場であることを認識し、小規模事業所として即時的支援へ結び付けるなどミーティングそのものの重要性を認識し、誰もが発言し易い雰囲気づくりを行う。また変則勤務であったり、送迎などで参加できない職員は自ら「記録」にて情報の収集を行うようにする。

これらから平成 29 年度の自己評価は「ほとんどできていない」を半減することを目標としたい。

② 今後も引き続き地区の一員として地区のお祭りやクリーン作戦など参加したり、また挨拶をはじめとし、今以上に地域との交流を行っていく。

また運営推進会議の場を今以上に活用し、地区・包括・事業所が情報の交換を行いお互いに協働出来るように取り組む

アグリ農園の活用：植え付けの際は、地域の方に農作業についてのアドバイスを受け実行する。収穫の際は利用者に「昔取った杵柄」と活躍が出来る場所を提供し、旬の物を食する環境をつくっていく。

大貫下区推進チームの方々との交流：事業所の行事の予定を周知し運営推進会議より発信し招待していく。今後は運営推進会議を活動の拠点として地域へ出て行くことは勿論、地域の方を招くという活動を行って行く。

回覧板の活用：一人でも多くの人への発信をおこなって行くと。その手段として「地区の総会」「回覧板の活用」介護保険事業所は難しいのでまずはパンフレットなどを回覧し、地域にどのような事業所があるかを周知するような努力を行う。

火災訓練：事業所は引き続き年2回の火災訓練を行う。予定を運営推進会議で周知し一緒に行うことができる。職員や利用者や家族の他にも公民館の行事に参加している住人や推進チームの方々に声をかけていく。